

## 株式会社フィート

### 聴覚障害者の社会自立を支援するコミュニケーションアプリの活用実践

#### 概要

聴覚障害者が他者と共生していくための前提として、確かな情報を周囲とほぼ同じタイミングと量で受け取れることが重要です。音声認識・合成技術(NICT)を用いて情報を直接利用者に届けられるコミュニケーションアプリは、聾教育、失語症訓練、自治体での活用実践により、人との関わりを深め、情報保障の一助になることを確認しました。

#### 特徴

- 『こえとら』アプリ※: “音声”⇄“文字”変換による高精度な音声技術、登録定型文を用いて、聴障者と健聴者の円滑なコミュニケーションを支援します。※20.8万DL(2020.9)
- 『SpeechCanvas』アプリ: 連続発話に対応する音声認識機能を備え、聴覚障害者への長文発話を必要とする窓口、教育等の利用に適します。 ※10.8万DL(2020.9)
- 教育(聾学校、特別支援学校(肢体不自由)、大学医学部)、失語症者リハビリ、窓口(自治体、鉄道)において、人との関わりや学びを深める情報保障の一助となっています。

#### 今後の展開

- 近年、聴覚のほか失語症など障害者に対する自立と就業支援に向けたアプリの幅広い利用が確認され、今後は、さらなる利用法の発掘と、他者と共生するためにコミュニケーション対象者へ周知を進めます。

#### 対コロナへの関連

- ソーシャルディスタンディングやリモートワークにおける新しいコミュニケーションの在り方に向けて、ワイヤレスマイク対応、ネットワークを介した音声、遠隔チャット機能、画面共有等の機能選択肢を備えています。

文字を声に、声を文字に、スムーズなコミュニケーションで日常生活をサポート

# こえとら

教育の現場で  
私は耳が聞こえないので、これを使ってお話しします。ちょっとよろしいでしょうか。

旅先や観光地で  
自治体・病院の窓口で

特徴

- 文字を音声で伝えられる
- 声を文字で伝えられる
- 定型文を使って伝えられる
- 手書きで情報を伝えられる
- 電波の届かない場所でも使える

GET IT ON Google Play

Download on the App Store

※2020年10月現在

#### 障害者の社会自立を支援するコミュニケーション活用実践

- 情報保障+協調作業 ◆無線マイク利用、チャット



- リハビリテーション



- ◆ 音声認識、定型文、音声合成(男女選択、話速変換)、履歴

#### ■ (対コロナ) 聴覚障害者の日常生活における活用提案



課題: 読話困難、会話の明瞭性低減、健聴者との会議情報保障

<開発元> **NICT** 情報通信研究機構  
National Institute of Information and Communications Technology